

私のウェルビーイングは…



見える化・一元化



新得町立屈足中学校 事務職員 磯貝 静香

《取組の紹介》

学校の事務職員として、日々の業務の中で「どうすれば教職員が働きやすくなるか」「どうすれば子どもたちの学びを支えられるか」を考えながら取り組んでいます。

これまで、文書の回覧や安全点検、電話連絡など、校内の情報共有に関わる業務を中心に、少しずつ「見える化」や「一元化」を進めてきました。小さな改善を積み重ねることで、教職員の安心感や連携のしやすさにつながり、その結果、子どもたちが安心して学べる空気が生まれているのではないかと感じています。



働きやすさ

学びやすさ

【文書回覧の「見える化」】

これまで、管理職の確認にはそれぞれの私印が必要で、押印の手間や確認漏れのリスクがありました。チェック欄付きのスタンプを作成し、押印を廃止。誰が確認済みか一目で分かるようになり、確認状況の「見える化」が進みました。業務のスピードと正確性も向上し、職員間の情報共有が円滑になったことで、子どもたちへの周知や対応もより的確になり、学びやすい環境づくりにもつながっています。



働きやすさ

学びやすさ

【安全点検の「一元化」】

毎月行っている安全点検では、長期休業中に特に細かく見てもらうため、紙の表を個別に回収していました。現在はスプレッドシートに直接入力してもらう形に変更し、入力状況がリアルタイムで確認できるようになりました。点検精度と業務効率が向上し、記録の蓄積も可能になりました。



勵きやすさ

【電話連絡の「即時共有」】

不在時の電話対応は、これまで紙メモや付箋で伝えていましたが、Microsoft teamsのチャット機能を活用することで、誰から・何時に・折り返しの要否などを即時に共有できるようになりました。情報の漏れや伝達ミスが減り、職員間の連携がよりスムーズになっています

《成果と課題・今後に向けて》

- ・【成果①】校内業務の「見える化」や「一元化」を進めたことで、教職員の情報共有がスムーズになりました。こうした環境整備が、間接的に子供たちの学びやすさにもつながっていると感じています。
 - ・【課題①】デジタルでの情報共有は進んでいますが、場合によっては紙に比べて目を通してもらいにくく、情報確認の習慣づくりが課題です。受け手の行動を促す工夫が今後必要だと考えています。
 - ・【課題②】町内の事務職員とは、Microsoft teams を通じて、日常的な疑問や事例の共有が迅速に行えるようになっています。一方で、町外との連携は電話やメールが中心であり、地域を超えたネットワーク強化が今後の課題です。
 - ・【今後に向けて】情報共有の手段は1つではありませんが、「つながりやすさ」「見える化」「即時性」といった観点から、デジタルツールの可能性を感じる場面が増えています。今後も、現場に合った方法を模索しながら、つながりを広げていけたらと考えています。